

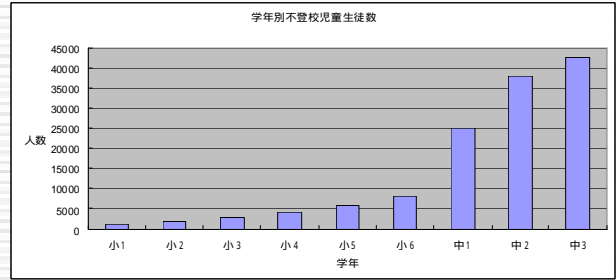
第56回愛知県学校保健研究大会

かかわりの力を育む支援の在り方
～学校ができる 子ども・保護者への支援～

名城大学 曾山和彦

2008.10.28

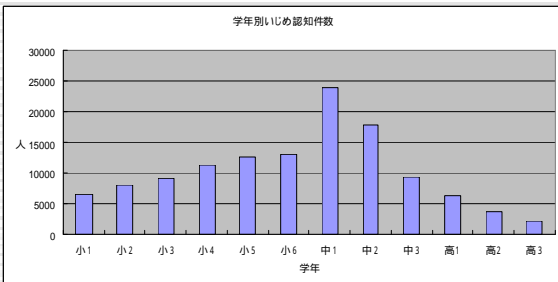
中1プロブレム;不登校の激増



H19;中学になると約3倍(8145人 25120人)

愛知12.5人/1000人(山梨15.1人、秋田8.9人)

中1プロブレム;いじめの倍増



H18;中学になると2倍弱(13047件 24023件)

都道府県認知格差あり 愛知12.6件/1000人
(熊本50.3件、鳥取2.1件)

「かかわり」の観点から子どもを見る

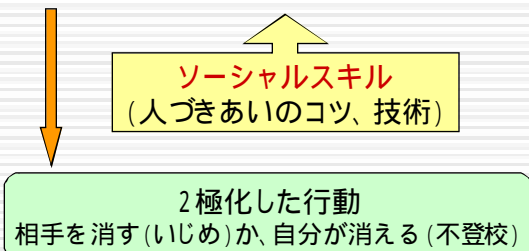
- 環境の変化
- 情報化、スピード化
 - 三間(時間、空間、仲間)の消失
 - 核家族化 等

昔に比べ、人とのかかわり不足の子どもたち

子どもに限らず、大人も

人とのかかわり不足が生む問題1

- 子どもたちの社会性が弱まっている



低い社会性(ソーシャルスキル)

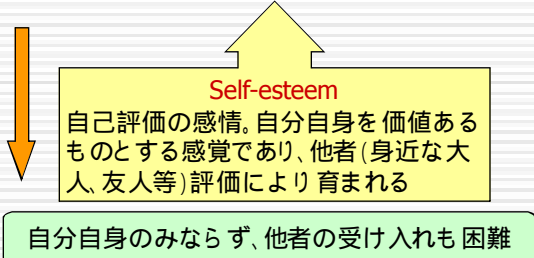
児童生徒の社会的スキルに関する縦断的研究
(石川信一ら、2007)

<研究概要>

小4~中1までの児童生徒対象。スキルは高学年が低い。不適応感も悪化。スキルは自然の時間経過によっては獲得されない。先生や友だちとの関係づくりスキルを学ぶことで学校不適応が改善

人とのかわり不足が生む問題2

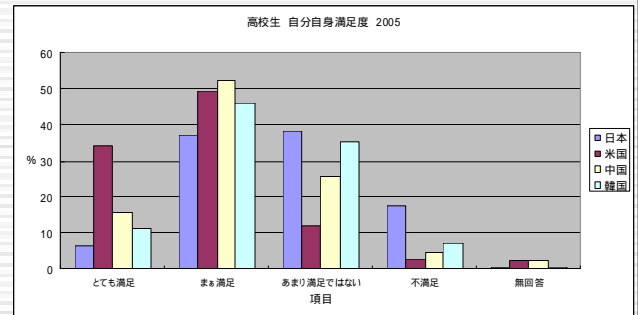
□ 子どもたちの自尊感情が低下している



7

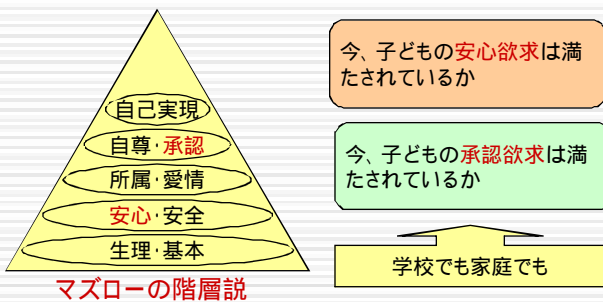
低い自尊感情

炭坑のカナリア現象



日本青少年研究所「高校生の友人関係と生活意識4カ国比較」

「欲求」の観点から子どもを見る



9

発達障害児支援の「二つの声」 ～ 障害を理解する～

よく指導してもらえなくてもいい。でも、子どものことは理解してほしい (ある保護者の声)

教育を行う者が、教育を行う子どもについて無知のまま教壇に立つことは、子どもに失礼極まりないことである (2003. 杉山)

自閉症者の自伝がそのヒントになる

テンブル・グランディン、ドナ・ウィリアムズ

10

発達障害児支援「教師ができること」 ～ 2次障害を防ぐ; 自尊感情を育む～

家庭や学校における日常的な注意、叱責は、子どものセルフエスティーム(自尊感情)を大きく下げる

どうせ、私は何をやってもダメなんだ

そんなことはないよ



教師の腕の見せどころ

11

発達障害児支援「教師ができること」 ～ ソーシャルスキルを育む～

ソーシャルスキルの質的变化
10歳までの「教える」、10歳からの「考えさせる」

□ 10歳前後を境に、道徳性(大人に委任 自分で判断)、友人・母親関係(母への同調 友人への同調)が質的に変化する。

学んでいないなら学ばばいい、間違ってるなら学ばせばいい

教師の腕の見せどころ

発達障害児支援「忘れがちなこと」 ～周囲の子どもと共に育てる～

AD H D の疑いのある小4男児
暴言等による他児とのトラブルが頻発

<1年間の指導を終えた担任の声>
学級全体に対するソーシャルスキルトレーニング等により、周りの子どもが育ったら、対象児童とのトラブルが減った。

参考:親野智可等氏のハンカチの話

13

学校不適応 予防・解決の視点

- 自尊感情を育む
- 社会性(ソーシャルスキル)を育む
- 児童生徒本人だけでは克服できない環境を取り除く(周囲の児童生徒育成等)

構成的グループエンカウンター(S G E)、
ソーシャルスキル・トレーニング(S S T)の活用

14

自尊感情を育む「3つの言葉かけ」

1. いいところ探し;「A君のいいところは だね」
2. リフレーミング;「短所は飽きっぽいところ」「それは という長所でもあるよ」
3. 勇気づけ;「ありがとう」、「うれしい」、「助かった」

失敗しても自尊心、所属感を失わない態度

子ども・保護者が元気になる魔法の言葉かけ

演習

自尊感情を育む言葉かけ プラスα

「例外探し」(by プリーフ・セラピー)

16

ソーシャルスキルを育む「3つのポイント」

□ 例:「話し方、聞き方」等のスキルに関して

1. うまくスキルが**使えない**時を見逃さない
(対応;対決アイメッセージ、確認の質問など)
2. うまくスキルが**使えている**時を見逃さない
(対応;褒める、勇気づける、認める)
3. 「**短時間、楽しい、継続**」活動の工夫
(違いはどれ? 命令ゲーム、他)

17

学校における新たなプロブレム

- 無理難題を教育現場に持ち込む親が増えてきている **モンスターペアレント**
- 授業中、立ち歩いている子を注意したところ、職員室で何時間も怒鳴り散らす親。朝早くから夜遅くまで担任や校長に電話をかけ、何時間も文句を言う親...等々

教師の対応が、「サポーター」になるはずの保護者を「モンスター」にしている場合があるのでは!?

18

保護者の元気を奪う「3つの助言」

先生、私はどうしたらいいでしょうか？

助言1: 「とにかく前向きに考えませんか」
(それができれば相談に来ないわよ)

助言2: 「 してみてください」で悩み解決
(次も困ったら先生に助けてもらえるわ)

助言3: 「 してみてください」で悩み未解決
(専門家のくせに何の役にも立たないわ)

19

保護者の元気を育む「3つの対応」

とにかく、話を聴く～基本5技法(受容、繰り返し、明確化、支持、質問)の活用～
「あの人が頷くだけで出る**勇氣**」

正論をぶつけない～「でもね」に注意～
「わかっているけど、あなたに言われたくない」

引き分けを目指す～勝たず、負けず～
「**第3の道**を探す」

20

まとめ

- ・子どものかかわりの力を育むには、「ソーシャルスキル」、「自尊感情」がキーワード
- ・保護者とのかかわりにおいても「自尊感情」はキーワード
- ・教師はいかにして、子ども、保護者を「褒める・勇気づける・認める」ことができるか。そこが教師の腕の見せどころ

21

参考文献1

- 発達障害の子どもたち、杉山登志郎、講談社
- 特別支援教育のための精神・神経医学、杉山登志郎・原仁、学研
- 特別支援教育基本用語100、上野一彦・緒方明子・柘植雅義・松村茂治、明治図書
- 気になる子の対応術、会沢信彦・曾山和彦、教育開発研究所(11月発刊予定)

22

参考文献2

- 発達を考えた児童理解・生徒指導～10歳までの教える生徒指導、10歳からの考えさせる生徒指導、川島一夫、福村出版
- エンカウンターで学級が変わる、國分康孝、図書文化
- グループ体験による学級育成プログラム、河村茂雄、図書文化

23

参考

発達障害とは；特徴及び主な障害

- 先天的
 - 症状が発達期(乳幼児期に多い)に出現
 - 生涯に渡る
- 基本的には、脳の機能的な問題が原因とされる

精神遅滞；認知の側面

脳性麻痺、筋ジストロフィーなど；運動の側面

発達性協調運動障害；手先の細かな動きの側面

LD、ADHD、高機能PDD

いわゆる軽度発達障害

通常学級で彼ら自身「困っている子どもたち」

参考

発達障害者支援法 (2005年4月施行)

□ 支援法における**発達障害定義**

自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害をいう。

これまで教育や福祉の支援対象となっていなかったものに対し、国、地方公共団体の支援責務を明らかにした。また、学校教育における支援、福祉増進を目的とするため、対象はやや**狭義**になっている。

25

参考

(軽度)発達障害の子どもたち

LD・ADHD・高機能自閉症等の発達障害のある子どもたちが小・中学校の通常学級には6.3%在籍する

「知的遅れがない！IQ70以上」

「軽度」と言われる所以

「**特異な困難を示す**」

「**どういう子ども？**」

26

参考

LD (学習障害)

聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する、の中で、**特異な困難がある** <教育的LD> disabilities = 困難さ

言語性LD; 言語理解、表出、読み、書きの困難
非言語性LD; 空間、身体像、社会的知覚の困難

チェックポイント~スキップ、フォークダンス、縄跳びの困難

読み・書き・計算の障害 <医学的LD> disorders = 機能不全

ディスレクシア

27

参考

ADHD (注意欠陥 / 多動性障害)

「不注意」、「多動性」、「衝動性」の三つの問題が見られる**セルフコントロールの発達障害**

前頭葉の活動が不活発 (ドーパミンなどの神経伝達物質の量、働き!?)

実行機能障害、ワーキングメモリーの障害とも言われる

教室で、特に気になる子ども

活性化作用のある**刺激剤**
メチルフェニデート

リタリン コンサータ(日本初の治療薬)

28

参考

PDD (広汎性発達障害)

- ・三つ組(社会性、コミュニケーション、想像力)の障害を有する
- ・「自閉症スペクトラム」と同義
- ・以下の5つのPDDがある

- ・自閉性障害 (*この中で知的な遅れを伴わないものを、「**高機能自閉症**」という)
- ・レット障害
- ・小児期崩壊性障害
- ・**アスペルガー障害**
- ・特定不能PDD (*非定型自閉症と同義)

上記の中で、高機能自閉症、アスペルガー障害、知的な遅れを伴わない非定型自閉症を「**高機能PDD**」という

29

参考

LDへの基本対応

例: 読みの困難がある場合

- ・教科書を120%に拡大する
- ・文章の文節ごとに区切りをつける
- ・本人に文節ごとに で囲ませる

ゆっくり、正しく読めるようになった

教科支援の基本: 該当学年より2~3学年下げた内容を!

30

参考

ADHDへの基本対応


脳の実行機能に弱さがあるため、自らの動機付けが困難故に、報酬(ご褒美)で行動をコントロールすることが基本

改善目標を一つ決め、達成したらシールやスタンプの報酬等

「パソコン」というリソースで別人のように変わったA君

主な配慮事項

- ・注意や叱責の何倍もの賞讃を
- ・できていること、できそうなことを賞讃する
- ・賞讃、叱責は直後に明確に
- ・指示は必ず復唱させる
- ・クールダウンの場を設ける 等



31

参考

PDDへの基本対応

視覚的な工夫

一度に一つ

肯定的表現

予定の伝達

文化に寄り添う

32